

続・朝鮮通信使 2010

「よしみ(信)をかわす(通)」の意で、江戸幕府が二百数十年間、招聘し続けた朝鮮半島からの五百人規模の文化使節団『朝鮮通信使』。その旅程の中でもとりわけ瀬戸内海は、このプロジェクトの要のエリアだった。ソウル～釜山～対馬～壱岐～下関の荒波の航海を経ての、瀬戸内の穏やかな海路と自然は、寄港した各都市(各大名)のホスピタリティと相まって、大陸からの人々を和ませ、このプロジェクトをより豊かな方向に導いたに違いない。当時から瀬戸内海はこうした意味において、異文化との交流の舞台であったといえよう。

さて、今回、瀬戸内国際芸術祭2010参加に際して、この『朝鮮通信使』を、今日の日韓の新たな交流プロジェクト『続・朝鮮通信使』として展開してみたい。出発はソウルからだが、とりわけ瀬戸内海のかつて関係のあった都市を中心に旅程を組み、交流プログラムを続けながら各都市を巡っていく。また当時交流のなかった都市でも、いま現在においてこのプロジェクトを理解してくれ、受け入れてくれるのであれば、積極的に協働していきたい。具体的には韓国の友人達(クリエイター)と主にBankARTメンバーからなる約20名のクルーが、二十数日間キャラバンを行う。当時のゆかりのある土地を中心に、瀬戸内国際芸術祭2010の島々やアートイニシアティブの組織や施設を巡り、愛知トリエンナーレ2010や夏の妻有等も訪れる予定である。

続・朝鮮通信使のこれからの主な予定

2010年BankARTスクールで、京都から仲尾宏氏を招き、通信使の基本的なことを学ぶ。韓国のアーティスト、オルタナティブスペースのチームの中心メンバーなどをこのプロジェクトに誘い、8月初旬～末にBankARTのメンバーと韓国人を中心としたチームが、ソウルから当時のルートをベースに妻有まで約30日程度旅をする。この年のテーマは旗と音楽と衣装。
 2011年大阪から横浜にかけてのルートを中心に調査・行動。2012年ソウルから釜山にかけてのルートを中心に調査・行動。2013年瀬戸内を中心に50人規模の交流を図る。2014年大阪～関東。2015年ソウル～釜山。2016年100人規模の通信使を招く。2017年準備期間。2018年準備期間。2019年500人の通信使を招く。

このプロジェクトを推進するにあたっての主な課題

- ① 500人の朝鮮通信使の選考(リーダー・現代/古典芸術・職工・科学・一般系・他)
- ② 150人乗り船舶(3艇程度)の長期間使用
- ③ ソウル～釜山～対馬～壱岐～瀬戸内海～京都～横浜までの旅程の宿泊等を受け入れてくれる都市(街)との協働チームの構築
- ④ 法的・感情的なハードルのクリアー
- ⑤ 以上を支える経済の仕組み



BankART 1929

歴史的建造物等を文化芸術に活用し、都心部再生の起点にしていこうとする横浜市の創造都市構想のひとつ。2004年3月に元銀行の建物二棟を核に実験事業としてスタート。スタジオ、スクール、カフェパブ、ショップ、コンテンツ制作をベースにしながら、アート、建築、パフォーマンス等、多岐にわたる主催・コーディネート事業を展開してきた。2006年度からは「経済的基盤の確立」「他都市及び国際的なネットワークの構築」「創造界隈のバイオニア的存在としての自覚」という指標のもと、本格事業へと移行。現在は、日本郵船の湾岸倉庫を活用したBankART Studio NYKを中心にBankARTかもめ荘等の4つのサテライトを拠点に活動を行っている。「地震EXPO」等の他分野との協働や、北仲B&Wや本町ビル45等、周辺の空きビルへのクリエイター誘致、「Landmark Project」「食と現代美術」「大野一雄フェス」等の街への展開を通して、創造界隈形成の一翼を担っている。

The City of Yokohama started the BankART1929 as one of the projects of regenerating the energy of the metropolitan area by reusing the historical buildings for the cultural and artistic purposes. It began in March of 2004 for a two years experimental project in the former bank buildings. The BankART1929 remains active in organizing and supporting many different projects yearly, crossing genres of the arts, architecture, performance, music etc., as well as running the artist residency, school, café-pub and bookshop, and the contents production. In 2006, the project was decided to be continued as one of the major cultural projects and encouraged to achieve the financial independence, to build the network among the cities and the nations and to play the leading role in the creative neighborhood. The current project includes the BankART Studio NYK using Nippon Yusen Warehouse, the BankART Kamome-so and additional 3 satellite sites. The recent entrepreneurial activities are : the Earthquake EXPO and other exhibitions fusing the different genres, the Kitanaka B&W and Honcho Shigokai utilizing the empty buildings for creators ateliers, as well as the Landmark Project, Food and Contemporary Arts and Kazuo Ohno Festival that mainly happen in the streets and outdoor spaces, thus contribute to promoting the creative neighborhood.